

2021年度 委員会事業報告書

未来に輝く青少年育成委員会 担当副理事長 飯田匡崇

1. 委員会開催日 (12回)

1 / 14	2 / 10	3 / 7	4 / 28	5 / 15	6 / 16
7 / 16	8 / 23	9 / 29	10 / 23	11 / 17	12 / 16

2. 事業報告

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| (1) 例会の担当 | 5月24日・6月26日・10月30日 |
| (2) わんぱく相撲(愛知ブロック大会)の担当 | 6月(中止) |
| (3) JCカップの担当【一宮】の担当 | 3月27日 |
| (4) 日本JCサマーコンファレンスの担当【横浜】 | 7月16～18日 |
| (5) 防災に関する担当 | 通年 |
| (6) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (7) 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

高木伸也 石川裕之 伊藤嘉孝

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、今後の激動の社会において、子どもたちが人間であるからこそ発揮できる力を活かして、未来を切り拓いていくことができるようになることを年間の目標としてきました。

まず、子供たちには、礼儀礼節を学ぶことで、他者を尊重する精神を育んでもらいました。しかし、礼儀礼節を身につけること自体が相手を尊重するという面もあり手段と目的の内容が重複してしまいました。他者を尊重する精神を強く育むには、礼儀礼節を学ぶ過程は間接的であり最適ではないと感じました。他者を尊重する精神をより強く育むのであれば、他者を尊重する点だけに焦点を当てて、そのための直接的な学び・体験の過程を経ると良かったと考えます。

また、子供たちには、一定のテーマについてオンライン上でそれぞれが意見を交わし合う体験から、各自が他者がなぜそのように考えるかを深掘りして、相手の考えを踏まえて発言したりまとめようとしていたりしていき、他者の考えを知り相互理解を図っていただきました。しかし、他者と意見を交わして相手のことを理解していただくだけでは、相手に歩みを寄せるような協調性までは全体としては見られなかったため、協調性をもった子どもに成長させる点は達成できなかったと考えます。協調性を身に付けるためには、「〇〇が××を担当して、△△は□□を担当」というような皆で一つのゴールを目指すように各自の役割をこちらから与えるような仕掛け・流れがあると良かったと考えます。協調性を身に付けるには、意見を交わし合い相互理解を図るだけでなく、複数人のグループの中で個々の役割を意識するようになることがより適したプロセスであると考えます。

そして、子供たちには、オンライン上の空間を用いて、ひとつの架空の世界に数人の合作や各自の建築物が複合したエリア創出することで、協力し合ってもらった体験をしていただきました。しかし、納得し合える答えの表現には至りませんでした。これは、各自が創りたいゴールを描いて個人の創造の集合体として協力し合った世界(納得し合える答え)として事業を構築していたからです。複数人が力を合わせて「1つの公

園を創る」・「1つのまちを創る」などの課題に向かって進んでいくようにしておけば、その過程で理想に必要な物は何かを意見を出し合い作業を進めていくことになり、個人が納得する答えではなくて、相互に納得し合える答えになったと考えます。もっとも、子どもたちは、各自が自己の住むまちの課題を見つけて、周りに無い新しい創造をしていたこと及び上述のように各自のまちに必要な建築物を組み合わせた地域を創造しました。この点からは、子供たちには新たな価値を生み出す力が育てており、この点は達成したと考えます。新たな価値を生み出す力を身に付けるには、個々人の創造を組み合わせることや個人の自由な発想を形にする方法を用いることが最適であると考えます。また、その過程において、納得し合える答えを模索することは、新たな価値の選択肢や幅を増やすことになるので、新たな価値の創造には不要とはいえないものと考えます。

相手に対して礼をもって尊重して接していくことで、意見を交えることが意味のあるものとなり協調性を身につけられて、協力していくことが可能になり、納得し合える回答を探して、新たな価値を生み出していく過程が人間ならではの考え抜く力につながると考えて年間の計画を立てました。そして、上述のように協調性を身に付けるところや納得し合える答えの表現まではいきませんでした。子供たちは相手を尊重して意見を交わして相互理解していき、新たな価値の創造ができました。人間ならではの考える力は、機械とは異なり、相手がいれば、その相手と協力をして、既存の価値ではない新しい価値を創っていくことです。そのため、人間ならではの考え抜く力・仲間とともに未来を切り拓いていく力を青少年に身に付けていただくことができたと考えます。もっとも、協調性を身に付けた上で、納得し合える回答を模索していくことができていれば、より最適な新たな価値の創出が期待できて、仲間とともに未来を切り拓いていくことがさらに可能になり、より人間ならではの力が醸成されていたと考えます。

5. 委員長所見

「未来に輝く青少年」をお題目にいただき、予定者期間から子供が未来を生き抜く力を獲得するためにはどのような設えが必要かを考えさせていただき、役職に応じたミッション・馴染みのない分野への試行錯誤を実際に体験させていただきました。想定外の課題や庶務に戸惑うこともありましたが、それも含めて今年度の学びや体験として、色濃い経験をさせていただいた一年でした。自身の力不足から事業構築に悩みどのようにしたら良いのか分からないまま時間を徒過してしまい、多くのメンバーにご迷惑をおかけしたことは大変に申し訳なく感じます。副委員長をはじめとする委員会メンバーに早期に相談して悩みを共有することで、何かしらの糸口がつかめたはずであると考えます。

当初は、当委員会は、わんぱく相撲海部津島場所・わんぱく相撲愛知ブロック大会を開催して、その中で「未来に輝く青少年」を育成していく予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度に引き続き今年度もわんぱく相撲海部津島場所及びわんぱく相撲愛知ブロック大会は中止となりました。これにより基本方針を変更した上で、事業構築に臨ませていただくことになりました。この変更に対応しきれず事業構築に十分な力を注げられなくなったことを反省いたします。わんぱく相撲を通して、当初、予定していた変化が対象者に起きたのかを確認することができなかったことは悔やまれます。しかし、わんぱく相撲ではない青少年育成の5月事業として、相撲と同じ武家社会の中で発展した能楽という手法で例会構築を経験できたことは、選択肢を広げることにつながったと考えます。今後、類似の事態が起こりうる際には、この経験を役に立てられれば幸いです。

一部の計画議案については、審議可決の時期を失ってしまい非常に苦い想いがありました。しかし、中でも、事業構築をしていき、適切と思える題材に巡り合い、LOMメンバーの協力もあり、運動発信をしていくことができました。事業構築における試行錯誤してもがく醍醐味を再認識しました。そして、担当した事業の参加者である子供たちや保護者から「また参加したい」・「楽しかった」などの声をいただくこともありました。今年度も子供たちの周りでは自粛の影響でイベントも減っており、青少年向け事業のニーズを

感じました。そのときに必要とされる事業を構築できる、青年会議所の役割が私にもみえました。また、参加した子供たちにまちのことを考えてもらう機会を設けてその様子を確認することで、海部津島青年会議所が事業を行う意味について、改めて学ぶことができました。

また、オンラインの事業を複数担当する中で、居所や年齢が異なる他者との交流が容易に可能になっていることを感じました。オンラインで開催する例会も、感染症対策だけではなくて、事業の目的や参加者の便宜との関係により、意義が大きい場合もあることを確認しました。

そして、集客面では何度も苦労がありましたが、10月例会では、子どもに人気のゲーム・アプリを手法とすること及び教育委員会に面談で相談した上でチラシ配布を行ったことが集客につながりました。この手法は、子供たちにもゲームやネット動画として最近では浸透してきており、これからの教育現場でも用いられるようになってくるとの話もあり、このような新しい手法を試してみることも青年会議所の醍醐味だと考えます。また、これまで事業のチラシの学校への配布が難しい場合もありましたが、今回は面談をして理解を得ることなどで、チラシの配布が可能となり、集客にもつながりました。教育委員会の理解を得てチラシ配布を行うことで、発信力が高くなりました。過去に担当した事業では集客が芳しくなく苦い思いをしていましたが、過去の経験を踏まえて色々と試していくことは必要であると考えます。

全ての担当例会を終えてみて、マイクラフトを用いて、5月・6月・10月と例会構築をしていくことも可能であったと思えます。そのような参加者や手法の連続性をもたせることで、今年度に関しては、より年間を通したゴールの到達には近付けることもできたと考えます。

最後に、今年度は事業構築にあたり、知見やマネジメント力が不足している私に対して、副委員長はじめとした委員会メンバーだけでなく、多くのLOMメンバーにご助言・ご協力をいただきました。皆様のおかげで、多くの回答探しをさせていただき、学ばせていただきました。皆様へのお礼と今年度の経験を活かしていくことを約束して、委員長所見とさせていただきます。

収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	24,000	事業費	23,000	(3)	24,000	(3)	23,000
合 計	24,000	合 計	23,000	合 計	24,000	合 計	23,000